

## WG 活動報告

### 21: 晩期合併症とQOL

#### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 山下 卓也	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
谷口 修一	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
廣川 誠	秋田大学医学部附属病院	第三内科
藤澤 信	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
森本 克	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植科
堀越 泰雄	地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院	血液腫瘍科
熱田 由子	名古屋大学大学院医学系研究科	造血細胞移植情報管理・生物統計学
黒澤 彩子	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
井上 雅美	大阪府立母子保健総合医療センター	血液・腫瘍科
河野 彰夫	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
田淵 健	がん・感染症センター都立駒込病院	小児科
森 有紀	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
石川 隆之	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
三原 英嗣	愛知医科大学病院	血液内科
酒井 リカ	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	腫瘍内科
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
岡本 真一郎	慶應義塾大学病院	血液内科
磯山 恵一	昭和大学藤が丘病院	小児科
大島 久美	広島大学病院	血液内科
仲宗根 秀樹	Stanford University School of Medicine	Division of Blood and Marrow Transplantation
桑原 英幸	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
稲本 賢弘	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
塩原 正明	松本歯科大学病院	小児科
飯田 美奈子	愛知医科大学	造血細胞移植振興寄附講座
石田 也寸志	愛媛県立中央病院	小児科
早川 晶	神戸大学医学部附属病院	小児科
瀬戸 愛花	岡崎市民病院	血液内科
初見 菜穂子	群馬県済生会前橋病院	血液内科
佐藤 篤	宮城県立こども病院	血液腫瘍科
西森 久和	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	血液・腫瘍・呼吸器内科学
福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科

## 2. 承認研究の進捗状況(2013年1月-12月 ※JSHCT2014を含む)

21-4	「同種造血幹細胞移植における晩期死亡と死因の解析」 PI: 熱田由子
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 執筆中	
21-7	「同種造血幹細胞移植後の晩期再発に関する検討」 PI: 山下卓也
学会発表: Takuya Yamashita et al. 55th ASH Annual Meeting, Dec 7-10, 2013, New Orleans, USA 山下卓也他 第36回日本造血細胞移植学会総会(平成26年3月7日-9日) 沖縄コンベンションセンター	
論文業績: 執筆中	
21-8	「自家造血幹細胞移植における晩期死亡と死因の解析」 PI: 飯田美奈子
学会発表:	
論文業績: 執筆中	

## 3. 会議開催記録(2013年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2013/01/13 13:00-14:00	国立がん研究センター 中央病院	1. 成人・小児 QOL 横断的観察研究の進捗状況報告 2. 同種移植における晩期死亡と死因解析研究の進捗状況報告 3. WG 責任者交代について
2013/03/20 12:00-16:00	安保ホール (名古屋市)	1. QOL 横断的観察研究の進捗状況報告および解析計画について 2. 同種移植における晩期死亡と死因解析研究に関する報告 3. 現行研究課題の見直しと新規研究課題の提案について
2013/07/07 13:00-14:00	名古屋第一赤十字病院	1. QOL 横断的観察研究の進捗状況と研究実施上の問題点について 2. QOL 横断的観察研究の解析計画の提示 3. 同種移植における晩期死亡と死因解析研究に関する検討 4. 自家移植における晩期死亡と死因解析研究の提案 5. 同種移植後の晩期再発研究の提案

## 4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2013年12月末時点まで)

( 440 )回

## 5. WG の今後の活動方針・抱負など

晩期合併症と QOL ワーキンググループ(WG)では、移植後長期生存患者における QOL の横断的調査を実施する下記の2つのプロトコルを立案し、昨年度から研究を開始した。

① 本邦の同種造血幹細胞移植後長期生存成人患者における Quality of Life に関する調査研究

② 本邦の自家および同種造血幹細胞移植後長期生存小児患者における Quality of Life に関する調査研究

両研究は日本造血細胞移植学会臨床研究委員会より学会主導研究として位置づけられ、多数の施設の協力を得て継続中である。2013年12月31日現在の調査票受領数は、①において患者902、医師864(目標症例数300)、②において患者246、医師280(目標症例数400)である。現在、当WGでは当該研究にて集積されるデータの解析計画を準備中であり、当該研究終了後には速やかにその結果を公表し、移植後患者の QOL 向上に資することを目指している。

当WGでは、現在、TRUMP データを用いた後方視的研究として3課題が遂行されており、本年度4演題の学会発表を実施した。現有の TRUMP データにおける晩期合併症や QOL に関する情報は極めて限られているが、当WGは、今後も新規課題を含めた後方視的研究を推進し、移植後晩期合併症の適切な管理と長期生存者の QOL の向上の礎となる情報の発信に努めたい。